

第 101 回実践勉強会 実施レポート

平成 30 年 11 月 13 日 大森赤十字病院 行動

座長 中畔 勇一 平岩知子

製品紹介 19 時 30 分～21 時 00 分

共催会社情報提供：「グラクティブ錠」小野薬品工業株式会社

講演 19 時 50 分～20 時 50 分

参加者 108 名

演題『 最近の糖尿病治療について 』

大森赤十字病院 糖尿病・ 内分泌内科 部長 北里 博仁 先生

11 月 13 日 (火)

「大田区薬剤師会 実践勉強会 世界糖尿病デー 薬薬連携セミナー」質疑応答内容

① 大森赤十字病院 薬剤部 平岩先生

「セマグリチド (注射・経口) が ADA (米国) のガイドラインで心血管イベント抑制のセグメントで推奨されたのは効果が確認されたからなのか？経済面からなのか？」

回答

「海外では糖尿病患者さんの脳梗塞、心筋梗塞が増えており、(日本では減ってきているが) FDA がそこをちゃんと抑制できるか、そのハードルを上げてガイドラインに記載することは理にかなっている。(その後のイベントにかかる医療費も含めた) トータルでの推奨と考えている。」

② 質問者 不明

「体重に関して減る、増えるという薬剤の話でどういう状態になったら薬剤の変更など

を検討するのか、目安があったら教えて欲しい。」

回答

「標準体重 (BMI22) と肥満 (BMI24) を比べると、体重の増加は現状の体重の約 1 割の増加である。そこからも目安としては体重の 1 割以上のプラスマイナスは気にしている。体重を減らす目標としては 5% を減らすことを患者さんに話をしている。糖尿病患者さんで血糖値が下がっても体重が増えるということは血液の糖が脂肪として蓄積されているだけで、インスリンの効きは徐々に悪くなるので、そういう状態は要注意。血糖をよくしつつ、体重も減らすというのが、ベストである。インスリン治療の患者さんはまず血糖値から下げなければいけないので、血糖を優先する。SU 薬などでよくみられるが、HbA1c が 6% 代であっても体重が増え続けていれば薬剤を減量したり、体重を増やさない薬剤に変更したりする。」